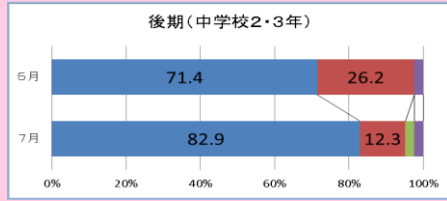
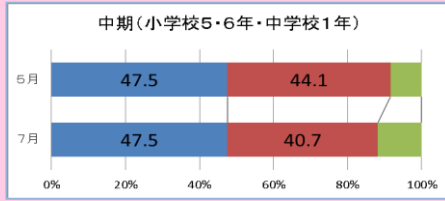
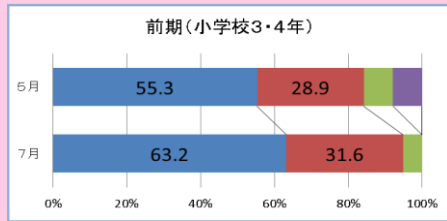
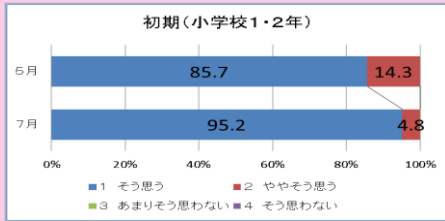


「道徳の授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしています」（道徳アンケート）



道徳アンケート（小学生自由記述）

- ・かぼちゃのついで、Y君が意見をいってわかりました。
- ・わたしは、Mさんの意見を聞いて人のはなしをよく聞こうと思いました。理由は、人の話をよく聞いとけば、しっばいとかをしなからです。
- ・みんなの考え方は、私とちがう。理由は、みんな、いつもちがう意見を考えて発表しているから。
- ・友達の意見を聞いて、それを自分の言葉に変えたりしながら発表ができるようになった。
- ・友達の意見を聞いて、自分の考えを深めたり、自分が体験したことを多く考えていえるようになった。
- ・前までは、ワークシートを読んで発表するしかできなかったけど、今は友達の意見を聞いて、それに対する意見がいえるようになりました。
- ・友達の発表をよく聞くようになり、人のきもちを考えたり思ったりしながら行動することが、前よりできるようになった。

成果（○）と課題（●）

○アンケートによると『『道徳の時間』では友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしている。』という項目について「そう思う」と回答した割合が向上した。小学生の自由記述でも「友達の意見を聞いて自分の考えを深めることができた。」「友達の発表を聞いて、人の気持ちを考えながら行動ができるようになった。」など、友達の意見を共感的に受け止めながら、自己の道徳的価値を高めている記述が多く見られた。

これらはいずれも、中学校区で育成すべき資質・能力として「対話力」を共有し、道徳的価値への自覚を深める授業づくりの研究実践を一貫して行っている成果と考える。

- 小中合同授業研修（事後研修）において、考えを深めたり広げたりするために発問の精選は不可欠であるという改善点が明らかになった。今後も、小中授業交流を通して、教材分析のあり方や発問の工夫等について協議し、小中9年間を見通して「対話力」を育成する授業づくりを継続していく必要がある。

平成27・28・29年度三次市「小中一貫教育」モデル地域指定（甲奴小・小童小・甲奴中）
平成29年度三次市甲奴中学校区小中一貫教育公開研究会

研究主題

ふるさと甲奴を誇りに思い、主体的に学ぶ子供を育てる授業の創造
～系統的な「対話力」の育成を通して～

研究仮説

発達段階に即して「対話力」の系統的な向上をはかれば、
子供が主体的に学ぶ力が伸びるであろう。

甲奴中学校区は、小童小、甲奴小、甲奴中の3校で甲奴中学校区小中一貫教育推進協議会を組織し、地域の教育力を最大限に生かし、コアカリキュラム、オリジナルカリキュラムを実施している。育てたい資質・能力として「対話力」を焦点化して小中9年間で系統的に育成し、外国語教育・道徳教育を柱とした小中一貫教育を進めることにより「ふるさと甲奴を誇りに思い、主体的に学ぶ子供」の育成に取り組んでいる。

リトルティーチャー

中学生が、自分の夢を英語でスラスラと発表していたのが、すごいと思いました。自分の夢を書くときには、とてもいいに教えて下さいました。ぼくがスピーチするときに気をつけたことは、はっきりと発音することです。中学生の人に教えてもらったときには「少し難しいな」と思いましたが、発表の時はスラスラと言えたのでうれしかったです。（小学生）

外国語活動のめあては「英語で夢を紹介しよう。」でした。私は小学校へ行く前にグループでどうしたら小学生に分かりやすく英語を教えることができるか話し合ったり、練習しました。教室に入った時、英語で話すことにすごく緊張しました。小学生へ英語を教えるのは難しいと思いました。しかし、小学生は自分たちの英語の発音を一生懸命まねて、発音が上手になっていきました。私はとてもうれしくて、人に教える楽しさを感じました。（中学生）

英語暗唱大会 小学生の感想

スラスラ発音よく言って、私の3年後もこんな風になっていたらいいなと思いました。3年生さんは、英語で話す内容がとても難しくとてもすごいです。（小学生）

長い文を全て覚えていてすごいです。発音がきれいでした。堂々と言っている姿がかっこよかったです。同じ3年生ですが、皆の頑張っている姿に勇気をもらいました。（中学生）

外国語の授業が好きです(小学生)

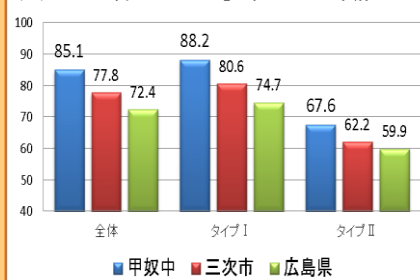


成果（○）と課題（●）

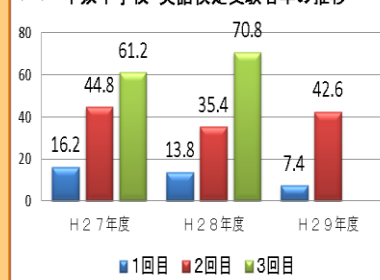
○中学生は、小学生に英語を教えることの難しさを感じながらも、既習事項や英語の発音を丁寧に意欲的に教えることができた。小学生の感想から、中学生の人としてのあたたかさや優しさを感じとり、英語へ向かう意欲が高まっていることが分かる。中学生は教えることを通して「英語を教えることは大変だったけど、小学生が一生懸命に勉強してくれて、楽しかった。」と自己肯定感が高まっている。

- 次期学習指導要領では、小学校においては「聞くこと・話すこと」に「読むこと・書くこと」が加わる。このことを踏まえて、校区内で外国語教育の小中接続を円滑にし、児童生徒の英語を学習する意欲が一層高まるよう、小学校への乗り入れ授業や授業交流等を計画的に進めていく必要がある。

【%】H29年度「基礎・基本」定着状況調査 英語



【%】甲奴中学校 英語検定受験者率の推移



小中合同合唱

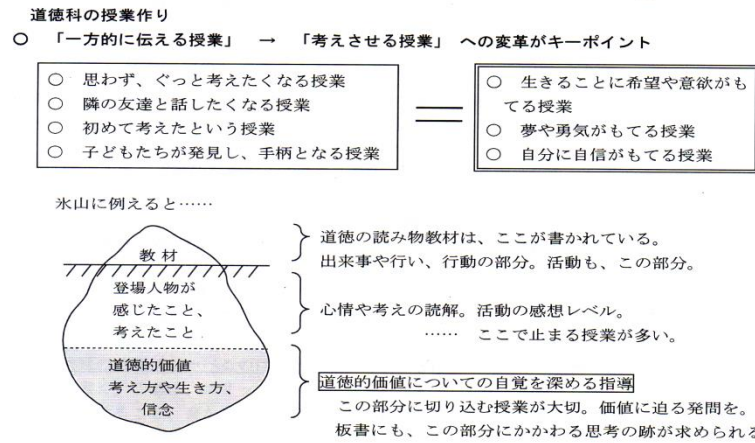
山里から世界へ ～地域を誇り、世界とつながる～

対話力の系統表

中学校	後期	3年	相手の立場や考えを尊重し目的に沿って話し合い、自己内対話をして自分の考えを広げたり、課題解決に向かってお互いの考えを生かしたりする力。
		2年	
	1年	目的や意図に応じて自分の考えをもち、互いの立場や意図を明確にして、比較・分類したり関係付けたりしながら対話し、自分の思いや考えを広げる力。	
小学校	前期	6年	
		5年	
	4年	根拠をはっきりさせて自分の考えをもち、目的を意識して、比較・分類したり、質問したりしながら対話し、互いの意見の共通点や相違点に着目して自分の思いや考えをまとめる力。	
初期	3年		
	2年	自分の考えをもち、互いの話に関心をもち集中して聞き、相手の発言を受けて話をつなぎながら対話し、自分の思いや考えをもつ力。	
	1年		

道徳教育の推進

道徳の時間の授業を一方向的に伝える授業から、考え、論議する授業へ変革させ、道徳的価値についての自覚を深める指導を行う実践を行っている。また「対話力」の系統表を作成し、小中9年間で系統的な育成を図っている。指導にあたっては、まず、教材分析法を研修し発問を工夫する。そして生徒指導の三機能を生かした協同学習を取り入れ、他者との対話や自己内対話により、ものごとを多面的・多角的に考え、主体的判断ができるように企図している。道徳の時間において、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てている。



平成28年度 広島県小学校道徳研究大会 資料抜粋



外国語教育の推進

甲奴中学校区には、毎年、姉妹都市アメリカス市からの訪問団が甲奴に訪れ、甲奴中学校の3年生の希望者が、アメリカス市を訪れるというように、27年前から外国の方と交流してきた歴史がある。その交流を励みに、英語活動・外国語活動に意欲的に取り組んでいる。交流会では、自分たちの普段の学習が生かされている実感味わうことができ、充実した姿が見られる。また、小学校外国語活動において中学生が先生役になって英語を教えるリトルティーチャーの取組や中学生英語暗唱大会等の異年齢交流を促進することで、小学生は中学校生活へのあこがれと英語学習への興味関心・コミュニケーション力を高める効果を期待している。校区2小学校から児童が中学校へ入学する上で、小学校同士の連携は不可欠であるため、合同外国語活動も実施している。

今後、次期学習指導要領実施に向けて、英語活動・外国語活動においても「主体的な学び」の創造を目指して「課題発見・解決学習」となるように単元開発を進めていく。単元のはじめに児童・生徒が自ら「学びたい！」と外国語を使う必然性を感じられるような導入を行い、最終課題までの流れを見通せるような授業づくりに取り組んでいく。

